

宗祖御遠忌記念事業

高山別院本堂等御修復 【第一期工事】 本堂屋根葺き替え 木工事・そして銅板葺き工事へ

御遠忌記念事業の第一期工事として進められている、本堂屋根葺き替え工事及び庫裡改修工事につきましては、設計監理に白鳥建築設計事務所、施工業者として株式会社中村社寺（愛知県一宮市）に請負いただき、進められています。

現在（7月中旬）、三島建築（郡上市）により木工事が進められており、雨の少ない梅雨であったこともあり、大きな遅れもなく順調に進められています。8月上旬には木工事は完了予定で、7月末からは、いよいよ銅板葺き工事が開始されます。

この度の銅板葺き工事については、偶然のことではありますが、現在の山門（昭和49年完成）の銅板葺き工事を手掛けた、東京の㈱小野工業所が施工することとなりました。㈱小野工業所は、銅板葺きに関しては全国でも屈指の企業であるとのこと。

8月には庫裡の改修工事として、便所の設置及び水屋の改修工事が始まり、第一期工事については、今年の別院報恩講までに完了する予定で進められてまいります。

【本堂屋根葺き替え工事起工式／4月12日】



4月12日、桜の花満開のなか別院本堂屋根葺き替え工事の起工式が執り行われました。

起工式には、別院関係者、御遠忌委員会役職者をはじめ、このたびの記念事業の設計監理をいただく白鳥修設計士、施工業者である株式会社中村社寺の加藤雅康代表取締役社長にご臨席いただき執行されました。

【足場設置／4月中 屋根瓦の撤去／5～6月】



起工式を終え、4月中旬から足場の設置が行われ、5月連休明けから本格的に瓦降ろし作業が始められました。5月13日には、早朝より多くの方が見守る中、棟飾りである獅子口（鬼瓦）が取り外されました。

2mをこえる大きな獅子口は約40ものパーツがつなぎ合わさってできていました。50年以上道場を護り、念仏者を迎えてきた瓦がその役目を終えたのです。

別院本堂は、約50年の歳月を経ており屋根面の破損が著しく、瓦の撤去後、瓦棧とコンクリートの隙間から雨漏りが頻発しました。当初ビニールシートでの養生で対応しましたが、不十分と判断し、急遽、コンクリート面にルーフィング（防水シート）の敷設を行いました。

【屋根木工事／5月下旬～8月上旬 銅板葺き工事／7月下旬～】



木工事は、母屋受け工事から始まりました。屋根コンクリート面にはどうしても凹凸があり、これを解消し屋根面の高さレベルを整える調整をしながらの母屋受け工事となりました。その上に母屋、そして垂木が敷設され、さらに微調整をはかりながら屋根面の平面化の精度を高めていく作業が行われました。

先端部分の作業も終了し、現在、野地板の敷設や向拝の作業が進められており、今後、箕甲や箱棟、獅子口の木部工事が行われ、近日、銅板葺き工事が始まります。銅板葺きについては、一文字葺きにより葺かれることとなっています。

【第二期工事に向けて検討を開始】

2018年に予定されている第二期工事の付帯工事について、具体的にどのような工事を行うのか検討が始められました。9月末にはその概要が取りまとめられる予定となっており、それを踏まえて、今年中には実施設計作業に取り掛かってまいります。

宗祖御遠忌法要教化事業

【同朋唱和の推進】

約3年後に控えた宗祖御遠忌法要では、「正信偈」を「真四句目下五洵」及び「草四句句目下三洵」の「同朋唱和」でお勤めする座が設けられます。これに向けて、各組又は寺族・門徒対象に練習の場を開いていただくことをお願いしてまいります。

また、「正信偈 真四句目下五洵」のお勤めの座については、各寺から50代前後を対象に2名程度の「声明参加者」を募集し定期的にお勤めの練習を行い、御遠忌法要当日に臨んでいただきます。

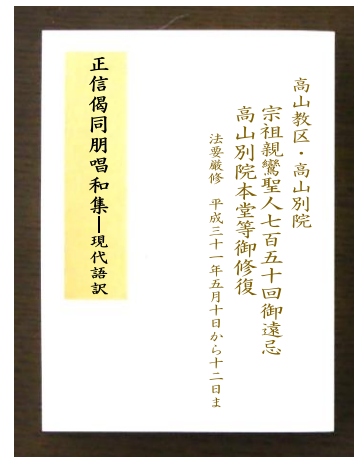
【『正信偈同朋唱和集—現代語訳付』の発行】

このたび、高山教区・高山別院では、宗祖親鸞聖人の御遠忌記念として『正信偈同朋唱和集—現代語訳付』が発行されます。

この『正信偈同朋唱和集』については、宗祖の著作、特にお勤めにまでなった「正信偈」「和讃」の現代語訳に触れていただくとともに、2015年に出された高山教区・高山別院の御遠忌法要教化における「同朋唱和」「報恩講」「伝える」というコンセプトを推進していくうえで、ご活用いただける勤行本（テキスト）としても発行されます。

配布については、御遠忌門徒懇志金の記念品（懇志金4万円ご納入につき2冊）として進呈されますが、御遠忌法要及び報恩講などの同朋唱和に広くご活用いただけるよう、有償頒布も行う予定をしております。（要望数のアンケートを実施いたします）

現在、今年中（出来れば別院報恩講まで）の発行を目指して、編集作業が進められています。



『正信偈同朋唱和集』イメージ
色調など変更されます

御遠忌・御修復の歩み 2016年3月29日から7月25日まで 主な会議・行事

※ 教区会・教区門徒会・院議会は除く。

- | | |
|-----------------|--|
| 3月29日 | 統括本部・募財部会（統括本部合同会議） |
| 4月12日 | 第一期工事起工式 本堂前にて執行。白鳥設計士、中村社寺及び教区別院役職者参加。
御遠忌推進委員会総会 御遠忌特別会計規則一部変更・総計画の設置及び募財計画の変更・
高山別院本堂御修復工事特別会計の設置 3案件について全会一致で承認。 |
| 4月15日 | 法要教化部会「法要儀式に関する研修会」開催
テーマ：「伝統法要と同朋唱和の意義」 講師：本山式務所出仕：竹橋太氏 |
| 5月11日 | 記念事業部会 |
| 6月 8日 | 木材検査（郡上市：三島建築） |
| 6月9日・28日・7月15日 | 付帯工事企画検討会議 |
| 6月15日・29日・7月22日 | 式支配所会議 |
| 6月22日・7月19日 | 同朋唱和企画検討会議・寺族研修・門徒研修 合同会議
➤ 今後、同朋唱和に向けての取り組みについてはこの会議で検討を進めていく。 |
| 7月 4日 | 法要教化部会 |
| 7月 5日 | 募財部会 |
| 7月 7日 | 統括本部・記念事業部会（統括本部合同会議） |
| 7月12日 | 御遠忌推進委員会総会 総計画変更案を全会一致で承認。
➤ 内容については、本紙1面「宗祖御遠忌総計画の変更について」を参照ください。 |
| 7月15日 | 「正信偈同朋唱和集」企画検討会議 |



高山教区・高山別院 宗祖親鸞聖人御遠忌通信

第4号 2016年7月27日 <発行> 高山教区・高山別院 宗祖御遠忌推進委員会

—宗祖御遠忌法要教化・本堂等御修復工事 推進—

高山教区・高山別院 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌

総計画の設置を承認 2016年4月 総計画の変更を承認 2016年7月

<宗祖御遠忌総計画の設置について 4月の臨時教区会及び教区門徒会、通常院議会において承認>

このたび、宗派の会計条例上での規定により、御遠忌特別会計の一部を改正し、2015年度から2021年度までの7年度の「総計画」が設置されました。

「総計画」とは完成に数年度を要する工事などで事業経費の総額及び年割額を定め、数年度にわたって継続して収入し支出するための会計で、「継続費」とも呼ばれ、長期にわたっての事業の見通しを明確にしめすことを目的としています。

御遠忌特別会計では経費の総額は定められていましたが、年割額が定められていなかったため、今回の規則改正で「総計画」を設置し、あわせて初年度となる2015年度予算を作成し、承認されました。

<宗祖御遠忌総計画の変更について 7月の通常教区会及び教区門徒会、臨時院議会において承認>

御遠忌特別会計の2015年度決算では、寺院及び門徒各位の尽力のもと、当初の予定を上回る募財収納をいただき、募財目標を15%としていたところ、30%分の収納をいただきました。特に、「特別懇志金」においては、当初予算を上回ったため30万円を増額し、収入の総額は変更しないため、「教区御遠忌事業推進資金回付受金」を30万円減額し、調整いたしました。

支出においては、「法要教化費」において「正信偈同朋唱和集」の仕様及び発行の変更にともない50万円の増額、「記念事業費」においては、本堂屋根スラブ面のルーフィング敷設及び本堂落雪除け屋根の製作にともなう経費228万円を増額。「奨励費」においては、記念品の調製及び志納者木札の作製にともなう経費として201万5,000円の増額となり、予備費を382万5,000円減額するなど、その他の支出の精査し、総額は変更しないよう対応しました。

※ 詳細は、飛騨教報●号（全寺院・全組門徒会委員送付）をご覧ください。

御遠忌・御修復懇志金御進納状況のお知らせと御礼

御遠忌御修復懇志金の7月25日現在における収納状況について、次のとおり御進納いただいておりますことを報告いたします。尊い御懇念をお寄せいただきましたこと厚く御礼を申し上げますとともに、今後ともご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

収納総額 **134,734,400円**（御進納率32%）

【内訳】御遠忌御修復懇志金	118,059,400円	（4億円）	（ ）	予算額
住職・寺族懇志金	11,100,000円	（1,580万円）		
特別懇志金	5,470,000円	（500万円）		
一般懇志金	105,000円	（200万円）		